

懸念される影響

1. 不安定な情動
無表情・攻撃的・うつ…
など
2. 欠食率が高い
3. 体温が上がらない
4. 学ぶ姿勢になれない
5. 性の早熟化
6. 肥満になる

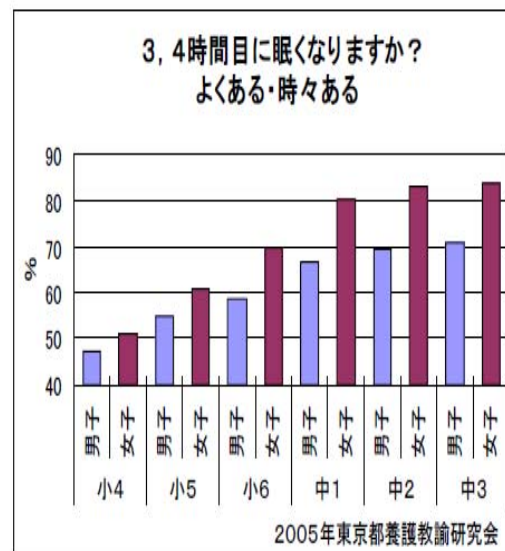


図13 午前中に眠い児童生徒の割合
(東京都養護教諭研究会2005)

育てる者の今



新任保育者への意識調査（2011鈴木）

- 調査の目的

保育者（幼稚園教諭・保育士）として仕事に就いたばかりの新任者に①幼児期の体験、②幼児との活動内容、③現在の生活習慣を尋ね、その関連を探る

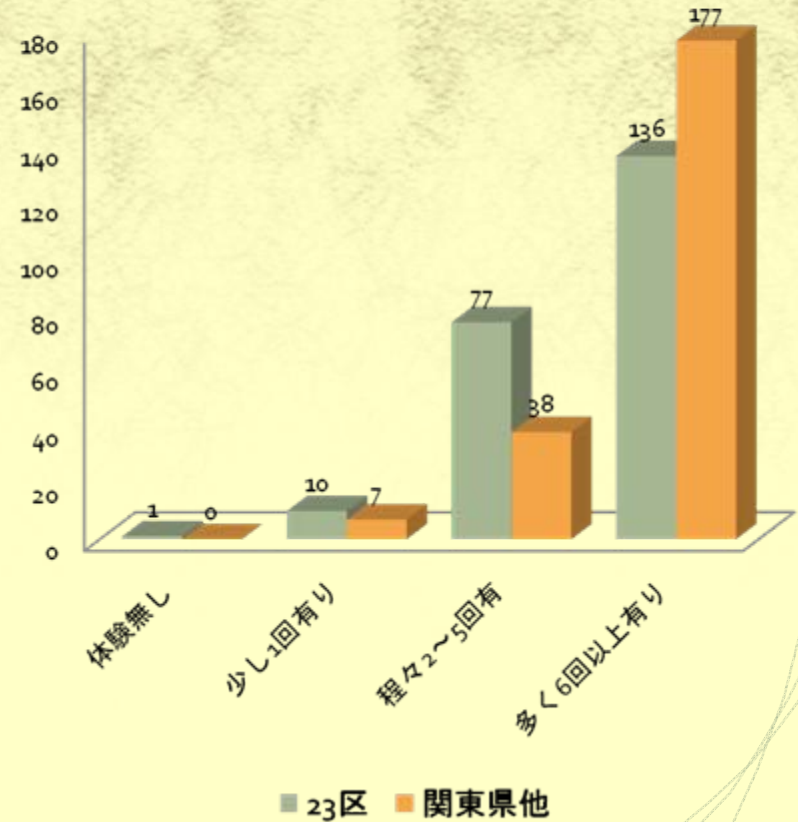
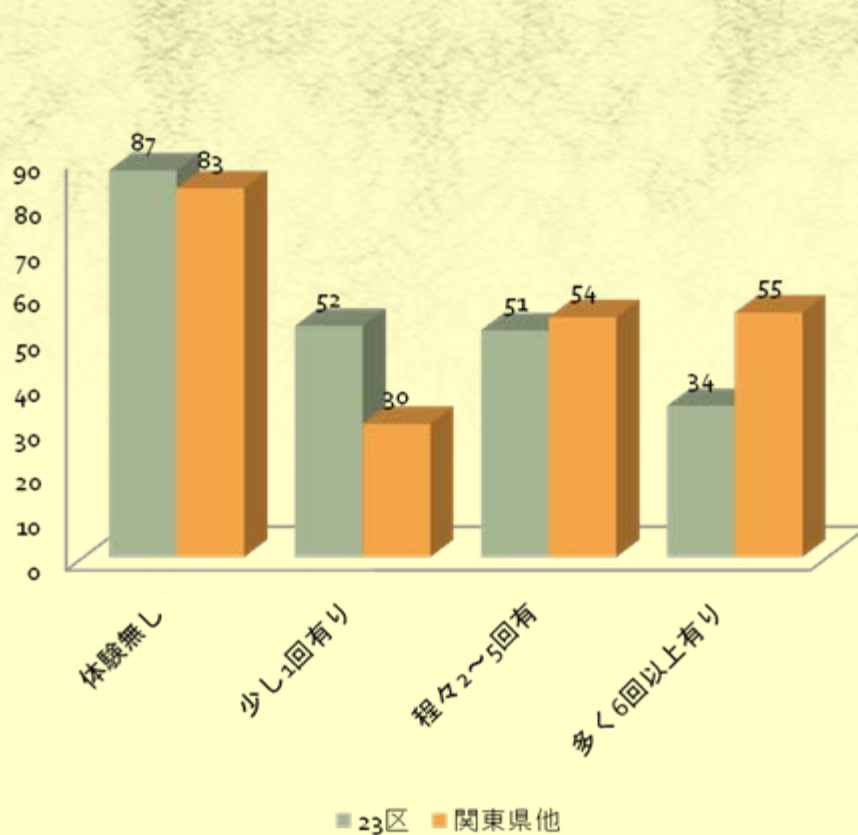
- 調査方法

2011年5～6月にかけて都内の私立幼稚園、民間（認可）保育所、特別区公立保育所に勤務した新任保育者に質問紙調査をおこなう

調査結果

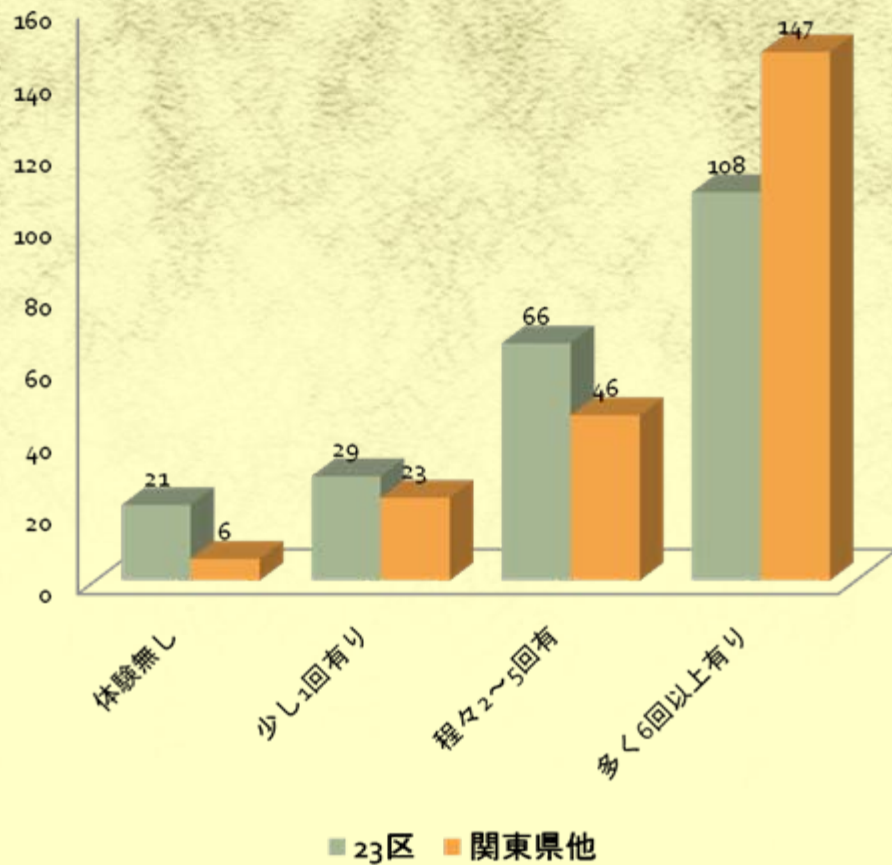
- ・対象 20歳～30歳までの新任保育者
- ・勤務先 東京都私立幼稚園214名、私立保育所343名、公立保育所70名計627名
- ・性別 男性36名(5.8%)女性586名(94.2%)
- ・学歴 短大・専門学校388名(62.7%)、4年制大学230名(37.2%)大学院1名(.2%)
- ・出身地 東京23区224名(36.2%)、東京市部172名(27.8%)、関東県他222名(36%)

1. 自然体験には出身地の影響が大きい 都内23区（224名）と関東圏他（222名）を比較

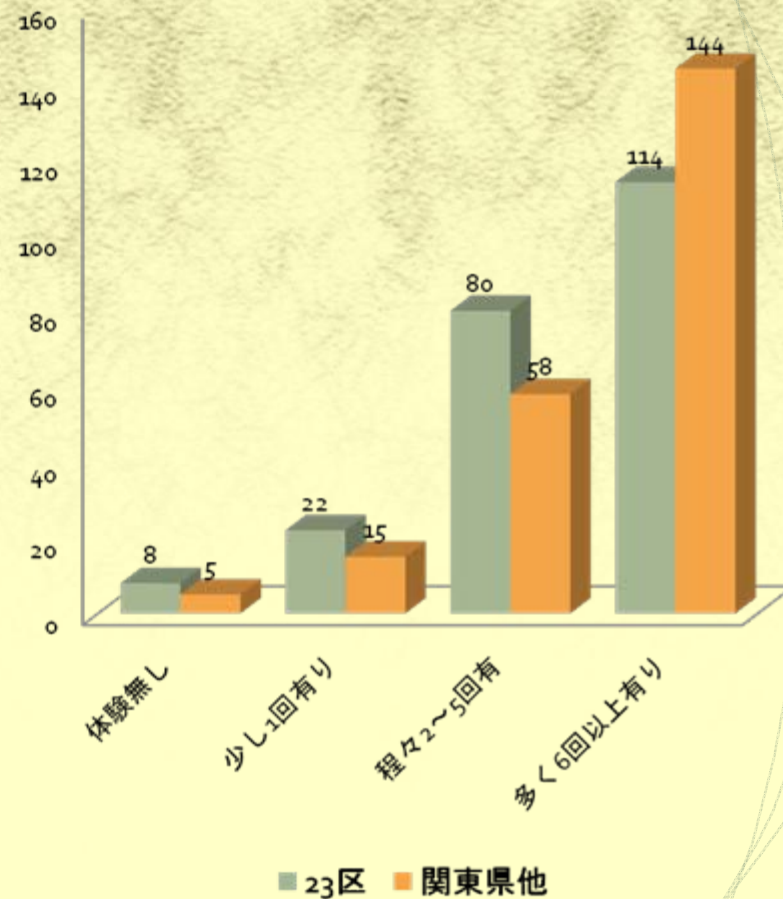


① 家族でキャンプをした経験の有無と回数(N) * (図14) * P < 0.5

② 自然なもので何かを作ったことがある** (図15) ** P < 0.01

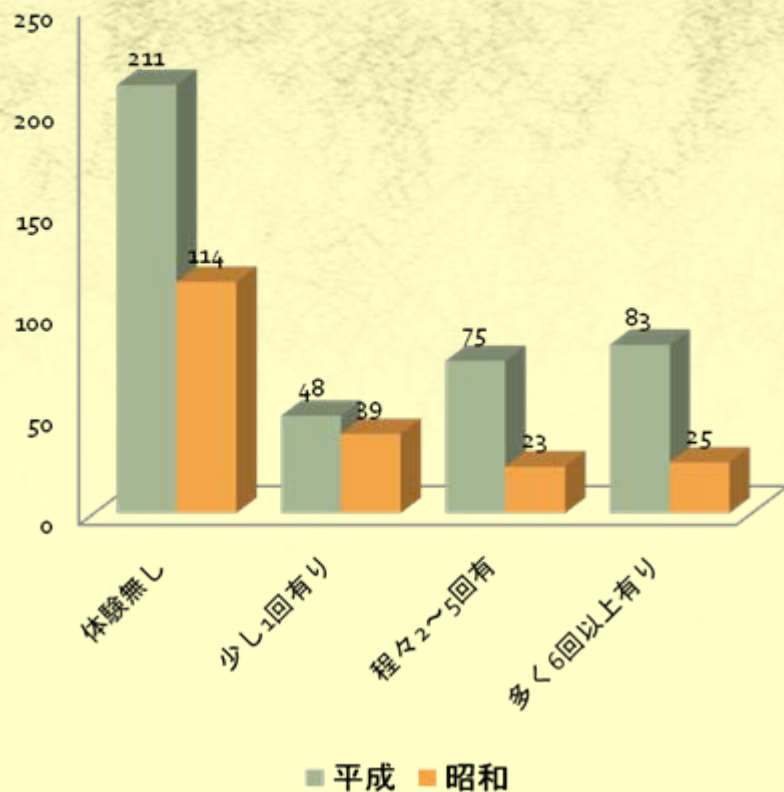


③蝶やトンボ等の虫をつかまえたことがある** (図16)

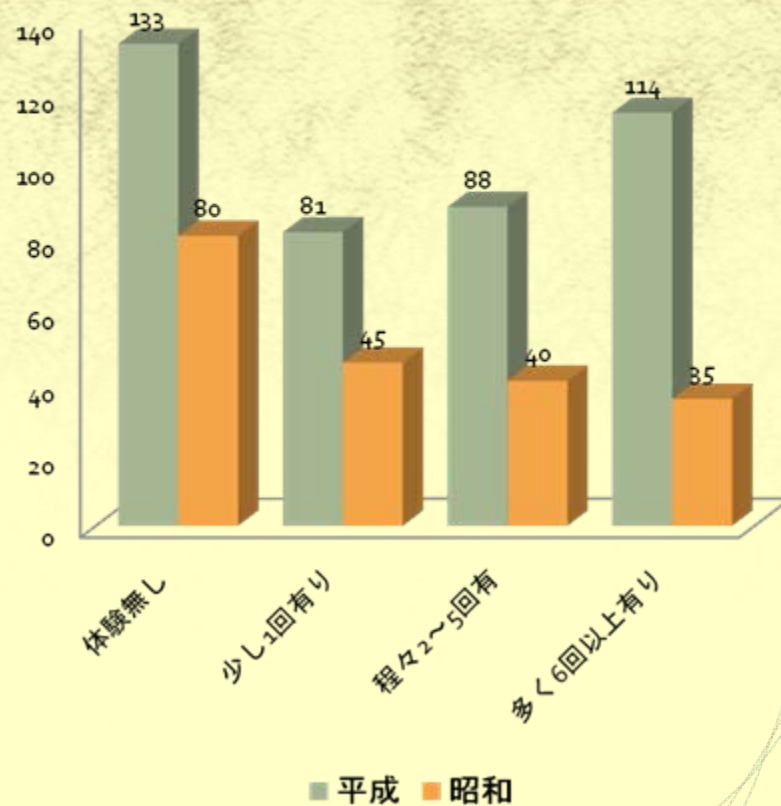


④豆のスジ取りなどを手伝ったことがある* (図17)

2. 生活習慣には年代の影響が大きい



⑤朝食を食べずに学校に行ったことがある** (図18)



⑥午前中に眠くてたまらなかったことがある* (図19)

3. 幼児と活動したい内容ベスト5

1 泥だんご作り

2 手つなぎ鬼やかくれんぼ

3 ままごとやお店屋さんごっこ

4 砂場で山やダム造り

5 基地や隠れ家作り

幼稚園教育要領

- ・ 幼児期における教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。
- ・ 遊びを通しての指導を中心
- ・ 幼児の主体的な活動が確保されるよう一人ひとりの行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなくてはならない。

育つ者と育てる者 ～情報発信の重要性～

1. 劇的な改善

早ね早おき朝ごはん運動

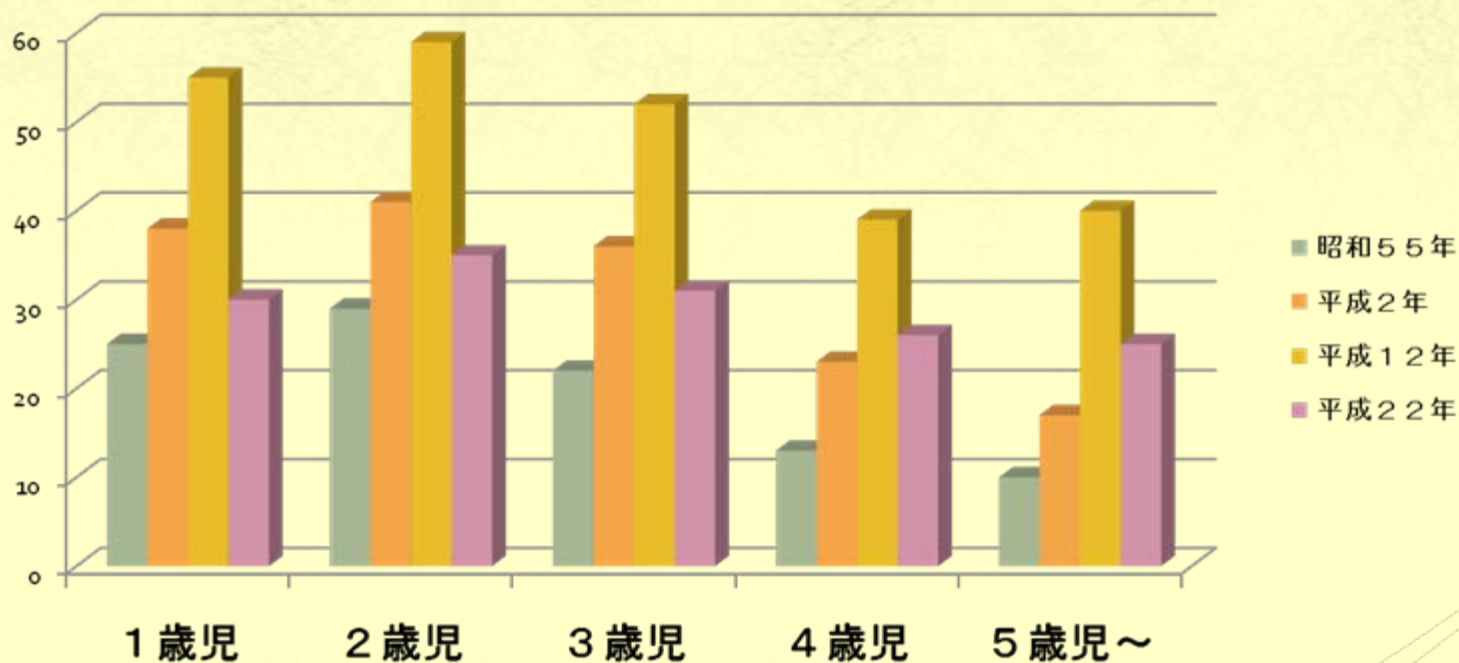


図20 夜10時以降に寝る幼児の割合（幼児健康度調査の推移）

まとめ

- ・ 育つ者（子ども）の生活習慣は、未だ懸念される状況ではあるものの、改善の兆しが見られる。
- ・ 育てる者の生活体験には育った環境や年代の影響があり、二極分化している。しかし、保育者として育てる立場になった場合選ぶ活動（遊び）は「体験の積み重ね」を必要とするものが多く、保育者養成課程及び現職研修の中で、必要な技術・判断を養うことが求められる。